

岩手

Web配信を利用した ハイブリッド形式の研修会の利点

岩手産業保健総合支援センター 労働衛生工学相談員 大塚 尚寛

岩手産業保健総合支援センター（以下「当センター」という）は、東北新幹線盛岡駅西口からペDESTリアンデッキで接続された盛岡地域交流センター（通称マリオス）の14階に所在し、盛岡駅から徒歩2分という好立地にあります。県内一高いビルであるマリオスの最上階展望台



盛岡駅西口から見た当センターがあるマリオス（高さ92m）

からは、浅田次郎著『壬生義士伝』のなかにある主人公の吉村貫一郎の名台詞「南部盛岡は日本一美しい国でござんす。西に岩手山がそびえ、東には早池峰。北には姫神山。城下を流れる中津川は北上川に合わさって豊かな流れになり申す。」の眺望が体现できますので、盛岡にお越しの際

には是非お立ち寄り下さい。

また、当センターの相談室からも、ニューヨーク・タイムズ紙「2023年に行くべき52カ所」の2番目に取り上げられた盛岡市の街並みや北上川、姫神山などが眺望できるのが自慢です。



マリオス展望台からの岩手山（通称：南部片富士、標高2,038m）の眺望

さて、前置きが些か長くなりましたが、当センターの活動状況について紹介します。当センターでは、事業者や産業保健スタッフ等を対象に、専門的相談対応・研修、メンタルヘルス対策の普及促進のための個別訪問支援、管理監督者・若年労働者向けのメンタルヘルス教育、産業保健に関する情報提供等を実施しています。そのなかでも主要な活動として、事業場で産業保健活動に携わる産業医、産業看護職、衛生管理者をはじめ、事業主、人事労務担当者などの方々を対象として、産業医研修、治療と仕事の両立支援研修、



Web配信を利用した研修会での質疑の様子

労働衛生対策研修、カウンセリング研修等の研修会をさまざまなテーマで実施しています。研修会の講師は主に相談員が務めていますが、相談員は、現在、産業医学8名、メンタルヘルス5名、労働衛生工学3名、労働衛生関係法令2名、保健指導3名の体制です。研修会は、コロナ禍以降は感染予防の観点から、会場参加とWeb配信のハイブリッド形式で実施しています。これが当センターの立地する岩手県の状況に適した方法になっています。その理由は岩手県の広さにあります。岩手県は、今ではMLBロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手の出身県として有名ですが、日本の都道府県では北海道に次いで2番目に広い面積15,275km²を有しているからです。盛岡駅から東京駅までの所要時間は、最速の新幹線で2時間11分なのですが、盛岡から遠い沿岸部などへは車で2時間以上かかる所があります。そのため、Web配信で受講できる研修会は、県内の遠隔の事業場等からの参加を可能にする方法として、今後定着していくかもしれません。

また、当センターの情報発信源であるホームページは、見やすく利用し易いサイトになるように、随時バージョンアップをしています。研修会や相談等の申込みも当サイトから可能ですので、是非ご覧ください。今後とも当センターの活動に、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

鳥取産業保健総合支援センター（以下「当センター」という）は、開設されてから21年目を迎えます。当センターは鳥取市の鳥取駅南口より徒歩3分に位置するビルの一 corner にあり、職員は、所長、副所長、保健師を含めて6人です。鳥取県内の50人以上の事業場数は約680事業場、医師会認定産業医は約350人です。令和5年度の事業実施状況ですが、産業保健研修・セミナーは86回開催され、その受講者数は約2,000人、訪問支援件数は112件で、その内訳は、メンタルヘルス対策促進員による訪問支援35件、登録産業医による訪問支援33件、両立支援促進員による訪問支援24件等でした。企業から寄せられる相談は、2,185件となっており、当センター分が205件、地域産業保健支援センター（以下「地産保」という）分が1,980件でした。主な相談は、健康診断結果の医師の意見聴取、健康相談、長時間労働者・高ストレス者への面接指導等でした。ホームページアクセス件数、メールマガジン送付件数は、ともに約30,000件でした。地産保は、鳥取県東部医師会館（鳥取市）、中部医師会館（倉吉市）、西部医師会館（米子市）の各医師会館内に設置されています。各地産保にはコーディネーターが配置され、58人の登録産業医の協力を得て、医師の意見聴取（1,819事業場、17,718人）、健康相談（164人）、面接指導（26人）、個別訪問指導（36事業場）などを行っています。

当センターの特徴的な取り組みのひとつとして、鳥取



鳥取さんぽセンター
（鳥取市内）

大学医学部の医学教育と連携した職場の熱中症対策の研修会があげられます。鳥取県は、日本海に面しフェーン現象により夏季に高温となりやすく、人口当たりの熱中症救急搬送が多いことが知られています。そのため、当センターでは、事業場向けに職場の熱中症対策の研修会を毎年開催しています。この研修会の一部で、鳥取大学医学部医学科の学生（4年生）による講演「熱中症になりやすい人、場所、気象条件と体調の異変に気付いたときの応急処置」の機会を設けています。これは、医学部医学科4年生の社会医学実習のプログラムの一環として行っているものです。医学生のわかりやすく一生懸命に伝えようとする講演は受講者にたいへん好評です。医学生にとっても産業保健事業に参加し、自ら学習し、その内容を発表する社会医学実習プログラムはきわめて貴重な体験となります。同時に、当センターの見学の機会を設け、医学生に産保センターの役割、産業保健事業についての理解を深めていた

だいています。産業医の人材育成という観点からも重要な取り組みと考えています。

当センターは小規模ではありますが、今後とも鳥取県、鳥取労働局、鳥取県医師会、鳥取大学など関係諸機関と連携しながら、産業保健関係者の支援、事業主等に対する職場の健康管理の啓発に取り組んでいきたいと考えています。



鳥取大学医学部医学科の学生（4年生）による講演